

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	会 議 ・ 打 合 せ ・ 協 議	文書番号	621
		決裁期日	平成 23 年 9 月 29 日
名 称	上富良野町住生活基本計画策定委員会 第 2 回会議		
日 時	平成 23 年 9 月 29 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 25 分		
場 所	保健福祉総合センターかみん 研修室		
出席者	苫米地委員長他策定委員11名、事務局2名 (別紙名簿のとおり) 委託調査会社2名		
内 容	<p>標記策定委員会の第 2 回会議を開催、その概要は次のとおり。</p> <p>1. 開会 生活環境班主主幹から開会を宣言し、欠席の委員 (3 人) を報告。</p> <p>2. 委員長挨拶 委員長： 出席ありがとうございます。今日は前回議論しましたアンケート用紙に基づいた調査結果等がまとまっていますので、それを基に議論を重ねてまいりたいと思います。上富良野町の将来を変えるような案件になりますので、忌憚のないご意見をお願いします。では、次第に沿って進めていきます</p> <p>3. 議事・質疑 (1) 住民意向の把握 (アンケート調査結果) について 資料 1.2 に基づき事務局から説明する。</p> <p>委員長： 委員の皆様には事前に資料が配られ目を通されているかと思えます。アンケート全般についてご意見ご感想があれば意見交換をしたいと思います。</p> <p>アンケートの回収について冒頭説明ありましたが、ほぼ人口の分布に合ったようなアンケート結果が出ていますので、このアンケートは信頼できるものと思われま。皆さんが普段お住まいになっていて、アンケート結果はこうだけど自分たちとはちょっと違うなということがあれば、これから考えていくときに重要になると思いますので、ここで皆さんから忌憚ないご意見をいただきたいと思います。</p> <p>順番に意見をお願いします。</p> <p>委員： 宮町はスーパーなどに近く便利な所に住んでいるわけですが、皆さんも同じように感じられていると思いました。結果はだいたい同じように感じられていると受けとめました。</p> <p>委員： 私たちが思っているとおおり病院・買い物・公園などは大体その地区</p>		

にあり、西町・北町などは役場に遠く、店も無く、交通の便も良くなく、回答されたとおりにと思います。意外だった点は、高齢者の待遇についても少し上がるかと思っていたが評価は小さく、現場を預かる者として20%位まで上がるかと思っていました。高齢者もこのようなことを考えているということが素直に結果として表れていると思います。

ドーコン： 資料1の8ページについて補足説明。

委員： 世帯の高齢化が進み収入があまりなく、リフォームをしたくても難しく、年金生活などからリフォームしたいというのが少ないと思います。

先立つものがなければ簡単には評価としては上がってこないと思います。

委員： 中心市街地活性化とか駅前再開発という意見が出されています。この点に関しては以前から議論されているが、いざ事業化となると自己資金が必要になってくるため、事業は実現できないのが現状。アンケートに沿ったことを策定するとなると中々選択するのは難しいと思います。

委員長： 市街地活性化はいろいろな市町村で問題になっています。上富良野町にも都市計画という長期の計画があり、その中でも補助金だのみということになってくるが、いろんな外部の資金を導入してやっていこうと都市計画を進めているところもあります。

ドーコン： 富良野市の駅前開発は区画整理を入れていて、補償で土地を動かして大きな区画を作り、農協の建物を市街地再開発事業で建て替えています。建物の一部には市の公共施設を入れています。駅前の開発では富良野市のような手法を取り入れているところもあります。

委員： なかなか事業に踏み出せないというのが現実で、これまで駅前再開発のチャンスはあったと思うが難しさはあると思います。

委員長： この辺のところは役場が本気になるかどうかと思います。少なくとも方向性を決めたら1年ずつ結論を出しながらやっていけば時間はかかるが前に進むと思います。この辺のところはアンケートからも住民の方がそのように考えているということも含めて、最終的な策定案の中に行政が覚悟を持って進むことを明記しておけばいいと思います。うまくいっているところは、町長のリーダーシップと行動力、決断力です。皆さんの選択によって町は変わると思います。

委員： 今回が初めての参加になり勉強させていただきたい。町の65歳以上の高齢者割合を見ましたが、私の住んでいる中町が30%以上になっていることにびっくりしました。

委員： 結果を見せていただくと、持ち家定住者が多く、定住志向が高い。町としては良い部分であると思うが、高齢化がどんどん進んでいくと空き家が増えていくと思います。本町に住んでいるので4、5丁目を回らせてもらおうと、住んでいないとわかるような家がびっくりするくらい多い。これが増えていくことに対して、将来のために何か対策をしていかないとゴーストタウン的な街並みができてしまうと気になってしまいました。

委員長： 現状分析をしながら、その対策も含めて今回の委員会で最終案に提示して、それを町が覚悟を持って進めてもらうことを報告書に書いて、計画的に進めてもらうようにすればよいと思います。

委員： 空き地などを利用して公営住宅を町の中心に持っていくことは良いことだと思います。町の活性化、購買力も付いてくると思います。

委員： 上富良野町の高齢者の割合が多くなっていることに驚きました。今後のまちづくりに関して、65歳以上の方が将来の上富良野町についてこういうまちづくりをしたらよいとの意欲を持った人がどれくらいいるのかどうか。若い人たちが将来展望を考えることが良いと思います。町の現状は65歳以上の方に対応するのが精いっぱいと感じます。このままでは衰退してさみしい状態になってしまうが、この高齢化の中でどう対応していくかは難しいと思います。

委員長： 皆さんの意見を伺うとアンケートそのものは、皆さんがお住まいになっていて感じられていることが出ているととらえられます。これからこのアンケートを基に今後どうやっていくかという議論に発展させていかなければなりません。それについて議案2と3に書かれており、関連あるのでまとめて説明をお願いします。

(2) 住宅と住環境に関する課題の整理について

(3) 住宅対策の基本方向について

資料1.3に基づき事務局から説明する。

委員長： 住宅と住環境に関する課題が4つ出されているので、これについて意見ををお願いします。順次、基本理念、基本目標・施策について意見交換していきます。

委員： 良いことが書かれていると思います。

委員： この内容は問題ないと思うが、これだけの量をどのようにやっていくのかが心配です。

委員： 高齢者の住宅のバリアフリー化について、補助金などはあるのかどうか。

ドーコン： それらも含めて検討にしています。介護保険にバリアフリー対策があり、これ以外に自治体が助成制度を行うときに国の交付金制度があります。

総務課長： アンケート調査で定住志向が高いにも関わらず住宅リフォームに対する意欲が低い結果です。バリアフリー、耐震、省エネ器具を合わせた助成制度を今年から町が独自に実施しています。リフォームに対する意欲がもう少し高いと思っていましたが、残念な結果と思います。高齢化になって生活する上で住宅対策は大きい課題であり、町も独自の助成策を講じました。介護保険は20万円上限で、これの対象にならない方に対して上

乗せをしています。

ドーコン： アンケート結果を見たときに、定住志向は高く、老後の住宅の不安に対し、リフォーム意識のギャップが大きいと思いました。行っていることの情報提供が大切と思います。

委員： 町では区画整理は行われていなく、小規模な開発行為による小規模な緑地的公園しかないため、そのように受けとめられていると思います。安心して暮らせるような取り組みが大切です。

委員： 住環境の課題はこの内容で良いと思います。上富良野駅はひどいと聞かれます。せっかく十勝岳とか日の出公園など立派な施設があるのに上富良野の駅で驚いたと聞きました。早めに環境を整備した方が良いと思います。

委員： 65歳以上の人は約3千人います。その方が家を建てた年齢は27～35歳位。その方の家を回ると、子育てを終え子どもも家を離れ、築30～40年が経っている。定住志向は70%以上あり、夢と希望は持てると思います。住んでもらえるよう、もっと定住に関するアピールをしてほしいです。

委員長： 定住志向が高いというのは町の財産になると思います。この財産をどう活用していくかが課題です。

委員： 家が古くリフォームしたいが、リフォームにはすごいお金がかかる。新たに家を建て替える力もない。定住していくには住宅が快適でないといやだと思います。リフォームの助成制度のお話ありましたが詳しく知らないで、もっとPRが必要と思います。直したくても直せないでいる人もたくさんいると思うので、町で定住に関するPRをもっとしていただければと思います。

委員長： 課題が4つ整理されていることに対して共通の認識を持って、次の段階に入ることにします。

ドーコン： アンケートの補足について説明。

委員長： 基本理念について、キーワードとしてこの言葉は入った方が良いといった意見をお伺いします。町がPRするときに用いる言葉は何かありますか。

建設水道課長： 特に設定していません。アンケートに出てきたキーワードは、この案に入っており、行政も住民も意識していると思います。町の観光パンフレットもこのような要素を用いています。

委員： 文章とか論文形式は書類として残っていると思うが、町民にはこれらをまとめたイラスト的な簡単なマップみたいな大きなA1位のものに、上から眺望したまちづくりを鳥瞰図にして、そこには人やこれら文章を含めたイラストがあれば、ほとんどの町民が一目瞭然にこういうまちづくりが良いと思う。文書を見ても進まないと思います。これを今後町で進めていってもらいたいと思います。十勝岳の鳥瞰図は吸い込まれるような地図で、これを町の中にあらわしていただきたいと思います。個人的にフッ

トパスをやっていて、町の中を歩いているが、まちづくりは町の中だけではなく、今後考えるときは周りの景観もまちづくりの一つです。東側は十勝岳連峰、千望峠を含めた西の山、それをすべて見渡せる日の出公園、日新地区の山、南側は芦別岳を展望でき、これらを含めたまちづくりが大切です。他の町と比較して違うと思うのは、パノラマを持っていること。十勝岳連峰と西の山はすり鉢になっていて、日の出山や西の山などの上から眺められる景色が町のあちこちに点在しています。今年になってフットパスは500人以上が景観を求めて上富良野に来ています。アンケートにある十勝岳、自然を重視したまちづくりは非常に大事です。町の中だけではなく、もっと好感度の中身のあるまちづくりを進めてほしいと思います。

委員長： 前原委員はこちらに来られて2年目と伺っています。外から住まわれるときに基本理念にあるなかから、これは入っておいた方が良いというキーワードみたいな感想をお願いします。

委員： 一番気に入ったのは山です。山が近くて雪山がすごく良かった。自然が一番です。それがこちらに住もうと思ったポイントになっている。上富良野は自然をいかに大切に維持しながらアピールできるかと思っています。

委員長： 基本理念について、ここに書かれてある内容をご理解いただけると思います。これはこれからのまちづくりを考えていくときの基本理念として、いろんな場面で使っていくことになります。

このような冊子はどこの自治体に行っても倉庫に眠っています。これらに関わってきたときは、厚い冊子を作ることも理解しますが、今回やった事業をポスター1枚にまとめるとか、A4・1枚にして全町民に配布するとか、そういうことも最終的にまとめるときに考える必要があると思います。

基本理念の言葉は今までの意見を基に事務局で整理していただきたいと思います。委員の皆様ももう一度見直していただき、この言葉が良いというような意見があれば事務局に申し出てください。現状の分析を行い、課題を整理して、基本理念の共通認識をしていただきました。これは町のキャッチフレーズとして使うことも多くなると思うので、再度事務局で考えていただくことにします。

具体的な施策に対して委員から意見をお願いします。

委員長： 空き家の問題について、町で把握されているのかどうか。

建設水道課長： 特にどの部署でも行っていないと思います。水道の関係からは空き家は増えていると思います。参考までに、景観に関する条例を16年に作り、景観法と道の景観条例の改正を受け昨年条例の改正を行いました。今年4月1日から道内10番目となる景観行政団体になっています。景観のメインにしているのが十勝岳の連峰景観で、この見えるものを守っていくこととして条例が作られており、景観法に基づく規制を行って守るということを行っています。

総務課長： 買い物・通院の不便さに関して、高齢化になると移動手段がな

くなるため、4月から乗り合いタクシーを運行しています。乗り合いとして、地区内200円、地区外は400円です。定住移住促進計画を策定しており、具体的に動き出しています。高齢化になっても、上富良野に住み続けるためにはどうしたらよいかを考えています。合わせて、町外から来ていただくにはどうしたらいいのかを具体的に計画しています。

生活環境班主幹： 情報提供として、住宅リフォームの助成制度に関して、今年の3月と4月の広報に掲載しました。町の一般財源を用い住宅リフォームに1200万円、生活灯に1500万円の予算が付いています。住宅リフォームと住宅設備の助成があります。助成は商工会の商品券を活用しています。住宅のPRとして10月31日から11月2日までかみん大ホールにおいてエコに関する展示を行い、住宅リフォームに関する情報を提供したいと考えています。今後ともいろいろな情報提供を進めていきたいと思えます。

公営住宅の空き家に関して、北海道工業大学に協力をいただき、泉町と扇町の公営住宅の構想を練っていただいています。定住に関して公営住宅が入っているのはどうかなと感じています。住宅が何戸あれば良いのかは悩みの種です。民間アパートでは4戸に1戸、25%は空いている状態のようです。1戸建てでも空いている状態です。公営住宅も建て替えを希望しつつも、家賃は変わってほしくないとの意見です。

委員長： 基本的な施策を示していくときに、町の事業を含めて考えていくことが必要です。いろんな資料について役場内で整合性を取るようしてもらいたいと思えます。

空き家の把握について、例として、町内会の回覧で、住宅地図に住んでいるかどうかの色付けをしてもらい、それをまとめて町全体の空き家マップを作ったことがあります。今ある機能を利用してやると意外に難しくないと思えます。町の中心部だけでも資料が出来てくると、空き家、空き地を集めてなんかできないかとなってくる。この辺は町の方でももう少し検討されてはどうかと思えます。

施策の中身については、これまでご意見がありましたが、さらに見ていただき、もう少しこういうものが入った方がいいとか、これはいらぬとかの意見を出していただきたい。

町民生活課長： アンケートに利便性の地図が4種類あったが、老朽化した公営住宅のある2地区が3割以下でした。現地建て替えを希望するとしながらも、悩ましい状況にあると感じています。商店街の活性化と関連して、65歳以上の色が塗られているところが、中心街であり駅前です。65歳以上の人が3割以上もいるところで、その活性化をするというときに、難しいことはあると感じています。公営住宅の一部をこの地域に持っていくことを考えたときに、難しい障害を感じました。

ドーコン： 福祉サイドの見方に立って考えていくべきなのか、今の環境を守っていくべきなのか、重点をどこにおいて考えていくかと思えます。お

年寄りが便利に暮らしていく環境をどう作っていくのか。高齢者を施設で受け入れるのか、公営住宅を高齢者の方に供給するのか、そういう判断の分かれ目にあると考えます。福祉サイドでフォローを行い、買い物も全て届けるような仕組みを考えていかなければなりません。住宅の基盤を整備して、お年寄りの利便性を高めていくことも必要です。

委員長： 外の者は色々と言えるが、ここに永く住んでおられる方には、ここは利便性が悪いから公営住宅を移転するから移り住んでというようなことが簡単にはできないと思います。いろんな関連することを含めながら、何を最優先にするのか、周りの改善を図りながらバランス良くやっていくことが役場の大きな課題だと思います。一番の問題は、総論は賛成だけど各論に入ったときに、自分に関わることには反対ということはよくあります。土地に対する愛着はあると思うので、全体を見越してどうしていくのか、役場の大きな課題だと思います。

委員： アンケート調査で高齢者への配慮意外に、若者への配慮が必要と思います。人は常に不満を持っているものなので、住宅に対しては精神的な不満も含まれていると思います。これからのまちづくりでは、高齢者への配慮も必要ですが、若い人がこれから町に住めるような、若い人が遊べるような場所などの配慮が必要です。

生活環境班主幹： 地域色を活かした環境づくりで、地域建材の利用がありますが、上富良野は具体的にどうですか。

委員： 他の町では活用されている事例あります。道産材の活用は有ると思います。

ドーコン： 意味合いとしては町産材を考えています。

建設水道課長： フローリングの加工所はありますが、一般的な製材所はありません。

委員長： 予定した時間となりました。これ以外に意見がありましたら事務局に出してください。

(4) その他

特になし。

4. 事務連絡

事務局： 次回は11月の上旬を予定しています。資料の調整を図りながら、日程を決めて案内させていただきます。意見あれば事務局までお願いします。

5. 閉会

終了： 午後3時25分